

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小66) 長崎市立(外海黒崎小)学校

1 教育目標

校訓「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」の具現化をとおして、社会を生き抜く力を身につけた子どもを育成する。
 ○めざす子ども像 「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」
 ・「じぶんから」=進んで学ぶ姿 ・「みんなと」=思いやる姿 ・「いっしょうけんめい」=やりぬく姿

2 学校経営方針

日本国憲法、教育基本法、関係諸法、長崎県及び長崎市の教育方針に基づき、本校教育課程の達成を目指し、学校・家庭・地域の協働による「社会に開かれた教育課程」推進のための取組をとおして、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に取り組む。

3 重点目標

- 1 豊かな心を暮らしに活かす子どもの育成 (G1-4)
- 2 確かな学力を身につけ発揮できる子どもの育成 (G1-1)
- 3 心身ともに健やかな子どもの育成 (G1-2)
- 4 家庭、地域との信頼の構築 (G1-3)

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	93	100	100	学校経営に関する肯定的評価は昨年度並み。[教育目標]に関しては児童で微減。また、[業務の改善]について教職員で微減。全児童と教職員が自信と満足感を得られるように、引き続き100%を目指す。日課変更等で、教職員が業務に集中できるようにし、児童との関わりに注力できるようにしていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	95	100	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			91	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	72	100	100	「生活・生徒指導」の3項目で、児童の肯定的評価が昨年度よりも微減した一方で、教職員の肯定的評価が100%。教職員は指導を徹底したが、自分からできるようになったと実感できていない児童もいることが分かった。より自律的に生活ができるような声掛けや指導の工夫が必要である。「あ・は・は運動」の項目では、児童・保護者・教職員全てでポイントが上昇。本年度重点を置いて指導した結果が出た。 昨年度に引き続き、「いじめ防止」「人権教育」「平和教育」の3項目において、児童・保護者ともに肯定的評価100%を達成したことは、本校が和やかな雰囲気の中で、互いに仲良くしていくことを大切にできた成果である。ただ、児童の乱暴な言葉遣いや呼び捨てなどが散見されるため、教職員が自身の言葉への意識を高め、児童の人権意識のさらなる向上に努めていく。
		挨拶をよくしている	91	98	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	93	100	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	95	100	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	100	100	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	100	91	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	100	91	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98	100	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	100	100	100	「特色ある学校づくり」「キャリア教育」において、児童・保護者・教職員の肯定的評価が100%。地域人材を活用した体験的な教育活動や、大学体験などの新しい活動を仕組んだことへの評価であると考えられる。「長崎のまちや地域が好き」という児童が100%なのも、その成果と言える。「家庭学習」と「ICT」については、教職員の肯定的評価が100%に対して、児童は微減している。ICTを学校や家庭でさらに効果的に活用することで、主体的な学習の取組が双方で実現できるようにしていきたい。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	100	100	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	98	91	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	100	100	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	100			
ICT教育	ICTを効果的に活用してわかりやすい授業を行っている	98	98	100		

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	100	100	「早寝・早起き・朝ごはん」の項目において、児童・教職員の肯定的評価が、昨年度よりも大幅に改善された。「あ・は・は運動」の浸透と、「睡眠」についての講演会が成果を発揮したと考える。引き続き家庭と連携して、好ましい生活習慣の定着を図りたい。 児童の「体力向上」の評価が下がっているが、インフルエンザの流行と、室内で過ごす児童の増加が一因だと考える。抵抗力を高めるため、定期的な運動への声掛けを行っていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	82	95	100	
		体力向上に努めている	86	98	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	98	100	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	98	100	2項目で児童・保護者のいずれかに評価の微減があった。「安全管理」については、日常的に児童に指導を重ねているが、校外での過ごし方や登下校の仕方についても、地域・家庭との連携を強め、多くの目で見守ってきたい。 「情報提供」については、2学期から学級通信をHPで配信するようになり、児童の目に触れづらくなったことが原因と考えた。適宜印刷したものを教室掲示するなど、児童も参画できるようにしていく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95	100	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	98	98	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	100	98	100	「教育環境の整備」において、保護者の評価が微減。特に運動場と体育館については、目に触れやすい場所でもあるので、地域や保護者の力も借りて、整備に努めたい。 「職場環境」については、働き方改革をさらに進め、日課変更等で、教職員が業務に注力できるようにしていく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			91	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○昨年度に引き続き、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を超えた。本校の学校経営について、確かな信頼をもって評価されているととらえ、この信頼をより確かなものにしなが、次年度のコミュニティ・スクールの基盤を固めていく。特に「確かな学力」において、「特色ある学校づくり」と「キャリア教育」には力を入れてきたので、高評価となり、成果が出たと言える。地域のヒト・モノ・コトを生かして、地域の魅力や自身の生き方を考えさせる教育活動にますます力を入れ、学力向上にもつなげていくことができるよう、教職員一同で研究を進めていく。

○保護者・教職員の肯定的評価が90%を下回った項目がなく、非常によい結果だったと言える。一方で、児童の肯定的評価が80%に届かず低い評価になった項目が「ルールやマナーを身につけている」、90%に届かなかった項目が「早寝・早起き・朝ごはんが身に付いている」と「体力向上に努めている」の2項目である。「早寝…」については、昨年度に比べて大幅に改善した。講演会やtetoru等での啓発が功を奏したと考える。残りの2つについては、児童の自律的・主体的な態度が重要になると見る。自己目標を立てさせたり、成長を可視化したりするなど、自身をコントロールできるような手立てを講じていきたい。

○教職員の喫緊の課題は、働き方改革である。「業務の改善」「職場環境」という項目の評価からもそれが分かる。日課の変更や業務の削減等だけでなく、次年度からのコミュニティ・スクールを生かし、地域の人材を積極的に活用することで、教職員が児童の指導に注力できるようにしていく。そうすることで、児童ひとりひとりを大切に、細やかで途切れのない指導の実現を目指す。

6 学校関係者評価

○高い数値が多く、先生方が上手く指導していることが分かる。学校が今年度力を入れてきた取組についての評価が高まっていて、結果が出ている。

○児童の評価が低い項目については、先生方の指導を子供たちが理解しきれていないところがあるのではないかと。重点目標を絞って、1つでも2つでも向上させてはどうか。

○運動会の際に、強風に飛ばされそうになっている用具を先生たちが一生懸命に押さえていた。天候等を予め想定して、必要な仕事と不必要な仕事を分けておくことで、行事がより運営しやすくなるかと考える。

○もちつき等の伝統行事を、文化の継承として残していきたい。その場合、大人の数が必要になってくるので、地域に呼びかける。

○運動場や体育館の美化や整備、花壇の手入れなど、地域に声掛けをして環境整備にあたってはどうか。ぜひ、声を掛けてほしい。

○生活・生徒指導の項目について力を入れていくにあたって、どこに問題の原因があるのかを探ることが大切である。

○ICT教育も大切だが、鉛筆の持ち方等も含めてアナログも大切にしていきたい。体力向上については、スマホやゲームの影響もあって評価が低かったのかもしれない。

○「そとめつ子発表会」は、とてもよかった。地域のことを学んだ成果がよく表れていた。次年度は、またちがう内容のものを見てみたい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校評議員の皆様には、本校が今年度重点的に取り組んできたことを大いに評価していただいた。今年度は、特に教育活動全体で「ふるさと教育」に力を入れたが、数値としてその成果が出ていることで、本校の経営方針をさらに信頼していただいた。学校評議員の皆様の中から、「環境整備等で、ぜひ声を掛けてほしい。」という声があがったことも、地域と学校が連携を深めていっている証左と言える。来年度は、いよいよコミュニティ・スクールを発足させることになるが、地域の教育資源のさらなる掘り起こしと、地域住民と児童との交流機会の増加を図り、その効果が最大限発揮されるような土台作りを行っていく。

○児童数・家庭数の減少により、保護者による育友会活動が厳しい状態になることも考えられる。今まで育友会で担っていた活動に地域の方に参画していただくことで、活動の充実を図っていきたい。そうすることで、家庭・地域・学校のさらなる連携が深まると考える。

○ICT教育について、量的な側面ばかりでなく質的な側面にも注目し、さらなる効果的な活用を図って学力向上と職員の業務改善につなげていきたい。併せて、情報モラル等について児童に考えさせていくことで、自律的な関わり方ができるようにしていく。そうすることで、心身の健康への意識を向上させていきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。